

地域密着型金融の取組みがまちづくりに果たす役割と可能性

-信用金庫の取組みに焦点を当てて-

建築学専攻
都市計画研究

MJ21010 ^{いまむら まきこ} 今村 真樹子
指導教員 佐藤 宏亮

1. はじめに

近年は市民主体の取組みが各地で活発に見られるようになってきているが、まちづくりに関する情報や能力、資金の不足が課題となっている。このような状況下にて、地域密着型の金融機関である各地の信用金庫（以下信金）では、金融業務に加え、創業支援や営利・非営利の多様な地域活動の創出の支援が行われている。地域に基盤を持つ信金にとって、多様な地域課題に対応する必要性が高まっており、空間づくり、まちづくりに寄与する取組みの増加が予想される。本研究では、『地方創生への取組状況に係るモニタリング調査結果～地方創生に向けた金融機関等の「特徴的な取組事例」～』⁶⁾（以下事例集）のうち、信金の地域密着型金融の取組みに焦点を当て、特に空間づくりに着目し分析を行うことで、どのような地域課題の解決策であるかを明らかにし、まちづくりに果たす信金の役割と可能性についての考察を目的とする。また、都市計画的視点からも地域自治における行政以外の一主体として、信金のまちづくりに対する意識や役割の考察は重要であると考ええる。

なお、本研究は地域課題解決としての信金による取組みに焦点を当て、多様化する支援や取組み内容をもとに分析し、信金が地域やまちに果たす役割について論じている点に特徴がある。

2. 対象となる事例及び信用金庫の概要と分類

課題解決型金融の強化に加え、信金の制度や組織としての独自性を一層発揮することが、地域活性化や地域の持続的な発展への貢献に重要であると先述の要綱（2012～2015 年度）にて示されており³⁾、それ以降取組みが進められてきたと考えられ、本研究は 2015 年度以降の事例集のうち、信金の取組み（事例数 86）とする。

なお、事例集は決められた様式でまとめられ、いずれも同程度の文字量・情報量であると判断できることから、本研究では筆者がキーワード（以下 KW）とその定義を設定し、地域密着型金融の取組みの分析を実施する。

3. 地域密着型金融の取組みと地域課題の解決

本章では信金を持つ問題意識と解決策としての取組み内容を分析する。問題意識の把握には、事例集の

経緯、動機等に関する文章より、KW に係る文言を抽出・分析を行ない、解決策については、事例集の情報全てをもとに、取組み内容を KW に分類し、何を実施しているか把握する。

信金が抱える問題意識には、本業や本業関連、連携への言及が多く、8 年間を通して非常に多くの関心が集まっており、金融機関の立場として、地域密着型金融に取り組もうとする姿勢が読み取れる。また、限定された営業地域を持つという特徴から、地域資源や地域経済の担い手に関しても一定の問題意識を持っていた。一方で、近年本業とは異なる福祉やコミュニティ、空間づくりへの関心の高まりが確認でき、中でもストック活用への関心が最も高かった。

実際の取組みでも本業や本業関連、連携に関する取組みが非常に多いが、これらの事例数は微減の傾向を見せており、地域密着型金融の多様化を示唆していると考ええる。そしてコミュニティ、空間づくりの取組みが近年にかけ継続的に実施、増加傾向にあり、特に空間づくりは事例数も多く（19 件）、直近 3 年間で過半数を占めていることから、多様な地域課題への解決策として、信金に取り組んでいると推察される。

地域の衰退が信金の存続に直結することから、信金は自ら解決の一助とすべく地域密着型金融の取組みを実施しているが、これらは多様化していることが明らかとなったことに加え、地域課題とされていなくとも、解決策としての空間づくりの選択が突出していることが示された。

4. 地域密着型金融としての空間づくりの取組み

本章では、空間づくりに該当する取組みを対象に地域課題の背景を分析し、それらが地域に果たす役割について考察する。該当する取組みとは、①ストック活用 ②場の提供 ③面的再生 ④空き家対策の 4 つであり、計 19 件の実施が確認できる。地域課題に言及があった取組みは 10 件、そのうち課題と同様の取組みを実施している事例は 9 件であり、内訳は①5 件、②④各 2 件である。信金は地域経済の活性化等を視野に入れた地域金融の担い手とされている点からも、空間づくりが取組みの主目的であるとは限らず、空間づくりの取組みは 6 件、他 13 件は地域経済・産業の活性化に関する取組みであり、空間づくりは

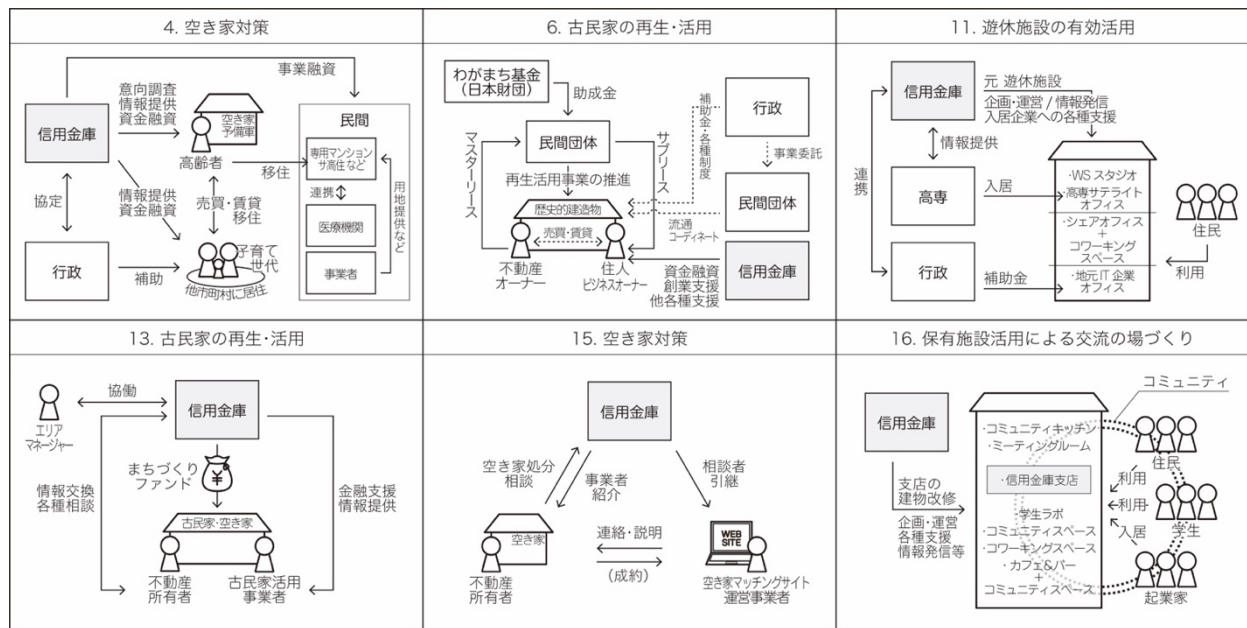


図1 空間づくりの取組みのスキーム

地域課題の解決策として汎用性が高いということが改めて示された。前述6件のスキームは図1に示す。

空間づくりが取組みの主目的の場合、内容は(1)空き家対策 (2)古民家等の再生・活用 (3)保有施設の改修・活用の3つに分かれた。(1)(2)では主体は信金ではなく、各主体への金融支援を中心に実施している。一方(3)では、施設の改修・活用案を信金が自ら企画・運営し、主体的な取組みの推進が明らかとなった。空間づくりが主目的でない取組みは、(1)(2)の事例と同様に金融支援が主であったが、主目的が観光活性化のものに関しては、空間づくりとの親和性が高く、空間づくりが重要な役割を果たしている。

以上より、空間づくりに関する取組みでも信金が果たす役割の中心は金融機関としての機能であったが、信金自らが主体的に場を通じた地域との関係構築を実施している事例では、従来の役割とは異なる地域への関わり方の可能性を示唆していると考えられる。

5. 信用金庫が地域に果たす役割と可能性

本章では、第4章にて抽出した19件の事例を実施する信金のうち、ヒアリング調査の協力を得られた11の信金の調査結果をもとに信金がまちづくりに果たす役割と可能性について考察する。調査の概要は表1に示す。

表1 調査概要

対象	事例1～19を実施する18の信用金庫
方法	ヒアリングによる質問への回答(オンライン・対面)
回答率	11金庫/18金庫(61.1%)
期間	2023年12月14日～28日
調査項目	① 取組みを始めたきっかけ ② 取組みにより解決しようとした地域課題 ③ 取組みの中で、「空間づくり」の取組みを地域課題の解決手段の一つとして選択した理由 ④ 信用金庫のノウハウやリソースの有無 ⑤ 地域に対する信用金庫の役割・立場の考え ⑥ 信用金庫による面的な視点やまちづくりの取組み実施の重要性及び、その主体としての信用金庫の可能性

ヒアリング調査の結果、信金の地域密着型金融における空間づくりの取組みは、近年重要視され始め、多くが手探りの状態から始めていることが明らかとなった。面的な視点で地域の課題を捉え、自ら取組みを実施しようと動き始めた信金の多くが、その解決策として空間づくりを選択していることがわかり、人やコミュニティの繋がりに着目した信金はいずれも、地域の情報の集積拠点であるという信金の強みを生かし、多様な主体を繋ぐ地域のハブをストック活用という形で体现していることが明らかとなった。また、空間づくりは観光面における地域課題との結びつきが強く、地域の歴史的建造物や街並みの保全・活用を通じ、課題解決および地域の持続可能性を高める事業展開、スキーム構築・支援を行なっている。

信金が地域に果たす役割として、共にまちづくりを行なう仲間集め、ネットワークの形成に加え、実際のプレイヤーと協働した持続可能な空間づくりの取組みの推進が挙げられると考えられる。

6. まとめ

信金や地域社会が直面する課題は複雑化し、地域密着型金融の取組みのアプローチも多様化している中、空間づくりの取組みは、多くの地域課題への汎用性が高いことが示され、各地で実施が見られた。役割の中心は総じて金融機能であったが、空間づくりに焦点を当てた際には、地域課題を面的に捉え、地域のハブとしての信金の姿勢が見られた。

持続可能な地域社会の実現は、地域と一心同体の信金の持続性を高めることでもあり、地域との信頼関係を構築してきた信金には、地域皆が同じ方向を目指すようまとめ、繋ぐ役割が求められており、地域社会の一主体として信金には、行政とは一線を画した、まちづくりに果たし得る役割があると考えられる。